

本堂（黒門）

黒門が建立されたのは十七世紀初期です。黒門はもともと輪王寺門跡の私有地へと至る玄関口でした。(輪王寺)門跡は、皇族の一員で、輪王寺の最高位の人物の一人であり、輪王寺だけでなく、東京の寛永寺、京都近くにあった延暦寺における権限も認められていました。日光に住む門跡の存在は、輪王寺の歴史的宗教的意義を示しています。門跡は皇室から任命されたので、黒門には皇室の菊の装飾が施されています。

1871年に門跡の私有地で火災が発生。建物が全焼した結果、残されたのは黒門と近くの護法天堂だけでした。1877年に日光二荒山神社の近くにあった三仏堂がこの地域に移転され、それ以来、黒門は輪王寺の主な玄関として機能を果たしています。